

今月の星空

北



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

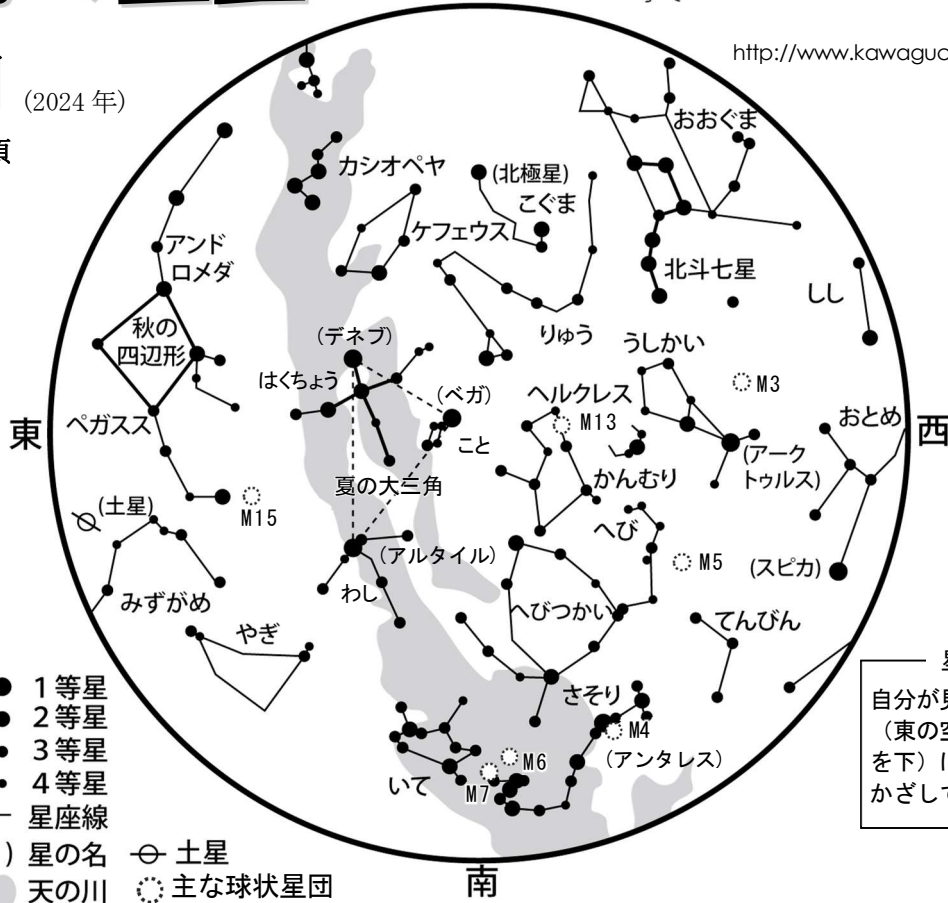


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

8月 (2024年)

中旬 20 時頃



月 齢 ● 新月 4 日、● 上弦 13 日、○ 満月 20 日、● 下弦 26 日

惑星情報 金星 日の入後 西(しし→おとめ座 -4 等) 火星 日の出前 東(おうし座 1 等)

木星 日の出前 東(おうし座 -2 等) 土星 真夜中 南東→南(みずがめ座 1 等)

☆夏の星座と伝統的七夕～月の舟に乗るスピカ～

8 月上旬は天の川や夏の大きな三角が夜のはじめ頃から空高く昇り見ごろです。梅雨明け後の安定した天気も相まって、毎年 8 月 1 日～7 日は「スター・ウィーク～星空に親しむ週間～」と設定されています。今年は月明かりの影響も少なく(4 日が新月のため)、空の暗い場所では天の川を望む良い機会でしょう。

10 日は旧暦 7 月 7 日にあたる「伝統的七夕」です。夏の大きな三角のベガ(織姫星)、アルタイル(彦星)を改めて見てみましょう。月の満ち欠けに基づく旧暦では、この日の月は、必ず半月前の舟のような形の七日月(月齢 6、右図)です。織姫と彦星は、この月の舟で天の川を渡り、会うことができるという言い伝えもあります。ちょうど、同日 20 時半頃には、この月が 1 等星のスピカを隠す「スピカ食」が起こります(右図)。スピカを織姫と見立てれば、スピカが月の影の部分に入り見えなくなる(潜入)様子は、月の舟に乗り込む織姫の姿かと想像も膨らみます。観察には望遠鏡や双眼鏡の使用が理想ですが、スピカは明るいいため、潜入は肉眼でも分かるかもしれません。



©StellaNavigator/アストロアーツ

図 10 日の月とスピカ食の潜入と出現(東京)

☆好条件のペルセウス座流星群と火星-木星の大接近

三大流星群であるペルセウス座流星群が 12 日 23 時頃に極大を迎えます。一番の見ごろは 12 日の夜から 13 日明け方にかけてです。一夜のうちでは、21 時頃から流星が出現し始め、放射点が高くなる 3 時頃が最も多くの流星を見られる予想です。また、今回は「極大時刻が夜間」であり、「月明かりの影響がない(12 日は 22 時過ぎに月が沈む)」という好条件がそろう年です。曇ってはい見えませんので、天気予報と共に、気象庁ホームページの気象衛星の画像から雲の様子を確認すると良いでしょう。

そして、流星観察をしながら夜遅い時間帯に見られる星座や惑星にも注目しましょう。真夜中の南の空には秋の星座や土星が、また、未明から明け方の東の空には冬の星座や火星、木星が見られます。特に火星と木星は距離が近く、15 日頃を中心に 2 つの惑星の位置の変化を観察してみましょう。15 日には、その距離が約 18 分角(満月の見かけの直径が約 30 分角)まで近づく大接近となります。